

第7回 一宮の魅力ある海岸づくり会議結果概要

日 時 平成25年2月23日(土)

午後2時00分～4時00分

場 所 一宮町保健センター3階多目的室

参加者 別紙

配布資料 会議次第

座席表

委員名簿

出席者名簿

会議傍聴要領

一宮の魅力ある海岸づくり会議規約

資料—1 第6回一宮の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

資料—2 3-4号ヘッドランド間の養浜について

資料—3 2-3号ヘッドランド間の対策について

【議事内容】

1. 開会

事務局から以下の点について確認した。

- ・ 傍聴における注意の説明
- ・ 配布資料の説明

2. あいさつ

一宮玉川町長から挨拶

- ・ 本会議も7回目となりました。
- ・ 前回会議では4号ヘッドランドの横堤の延伸、3-4号ヘッドランド間の養浜について合意されました。
- ・ 今回の会議では具体的な養浜の計画となりますが、合意形成が図られ、さらに前進することを期待しています。
- ・ 委員の皆様にはご協力を賜りたいと思っています。

3. 委員紹介

事務局から委員の方々の紹介を行った。

- ・ 一宮町地曳網保存会会長の山口委員、十二社祭り保存会の御園生委員は欠席
- ・ 一宮の海岸環境を考える会代表の小松委員の代理で大橋委員が出席。

4. 議事

近藤委員長から挨拶および会議の流れについて説明した。

- ・ 年度末のお忙しい中お集まり頂き、感謝しています。重要な会議であり、手戻りのないように進めていきたいと思っています。
- ・ これまでに6回の会議が開催され、そのたびにたくさんの意見を頂きました。また、それを受けて、技術的な話もして、順序立てて進めてきています。今後も前向きに話していきたいと思っています。
- ・ 前回の会議は約5ヶ月前となります。手元の資料に前回の議事録があるので、確認して頂きたいと思います。

(1) 第6回一宮の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

事務局から、第6回一宮の魅力ある海岸づくり会議の結果概要について説明した。(資料1)

- ・ 意見交換では①地盤の隆起について教えてほしい②立入禁止看板が適切な位置であるか?③養浜は大型土嚢で施工してはどうか?④養浜はチョウセンハマグリに気を付けてほしい、といった意見を頂いた。
- ・ 近藤会長からは①経験的な要素があるので、意見を出し合って決めたい②養浜材料はよく検証しなければならない③海岸に砂を増やすためには養浜が必要である、といった意見を頂いた。
- ・ 4号ヘッドランドの横堤(北側)の延伸、3-4号ヘッドランド間への養浜について賛同を頂いた。
- ・ 九十九里浜の隆起と沈下についての回答を報告。
- ・ ヘッドランドの被覆ブロックについての回答を報告。
- ・ 立ち入り禁止看板についての回答を報告。
- ・ 大型土嚢袋についての回答を宇多委員から説明。

【意見・質問】

(近藤委員長)

- ・ 九十九里浜の地盤変動について、40cm以上沈下しているという現状について説明がありました。
- ・ ヘッドランドの被覆ブロックについて、一部は沈下しているが安定傾向にあるという説明がありました。
- ・ 立ち入り禁止看板の設置状況についても説明がありました。
- ・ 3.11の津波でどこまできたのか、高さが分かるようなものがあると、避難を促すサインになるのではないかと思います。
- ・ 大型土嚢袋の効果について宇多委員から説明があり、効果が見込めないといった事例紹介がありました。
- ・ 以上、前回の議事録を含めて事務局から説明がありましたが、ご質問・ご意見はありますか?

(松井委員)

- ・ 地盤高の件に関して、地震後にも公共の基準点が使えるか疑問ですが、どこを基準にしてい

ますか？

(事務局)

- ・ 基準点は、千葉県の精密水準点を使用しています。
- ・ 震災の影響についての詳細なデータについては、本日持ち合わせていません。

(近藤委員長)

- ・ 国土地理院の基準点を使っているということです。

(大橋委員)

- ・ ヘッドランドの上(ヘッドランドの付け根)に離岸流注意喚起の看板があるが、もっと良い場所に設置した方が良いのではないのでしょうか？
- ・ ヘッドランドの上に乗らずにそのまま海に入る人もいるので、そういった人たちにも気付かれる位置にも設置するなどの工夫をして頂きたいと思います。

(事務局)

- ・ 遊泳の注意喚起看板として、各ヘッドランドの根元にはもちろん既に設置してありますが、海岸にアプローチしやすく、多くの人が見える箇所にも別途既に設置しています。

(傍聴席)

- ・ 津波のビデオがあるので提出したいと思います。

(近藤委員長)

- ・ 後ほど事務局に言って頂いて、対応します。

(2) 3-4号ヘッドランド間の養浜について

事務局から3-4号ヘッドランド間の養浜対策について説明した。(資料2)

- ・ 前回のおさらい(対策優先度の高い海岸、計算結果)について説明。
- ・ 現在の海岸(浸食)状況を説明。
- ・ 3-4号堤間の計画概要(横堤延伸の計画、粗粒材養浜概要、モニタリング)について説明。
- ・ 茨城県粗粒材養浜事例について説明。
- ・ 粗粒材養浜の期待される効果について説明。

【意見・質問】

(近藤委員長)

- ・ 事務局から3-4号ヘッドランド間の砂浜再生に向けた説明がありましたが、ご質問・ご意見はありますか？

(近藤委員)

- ・ 養浜材のサンプルはありますか？
- ・ サンプルを見ると粗すぎると感じます。
- ・ 前は粗い砂という説明だったので、今回持ってきたサンプルではイメージが違いすぎます。

(宇多委員)

- ・ 先ほどの事務局の説明ですと、神向寺と同様の粒径の養浜砂を使うということでしたが、近藤

資料- 1

委員の粗すぎるという意見を受けて、もっと細かい養浜材にすることもできます。

(近藤委員)

- ・ 前は粗い砂ということで、同意したのですが、今回のサンプルを見ると砂ではないです。
- ・ どうしてもこの砂利を養浜するということであれば、こちらも考え方を変えなければいけなくなります。

(宇多委員)

- ・ 近藤委員のおっしゃる通り、粗すぎるということはその通りだと思います。
- ・ 神向寺に使用した粗粒材(2.5~13mm)と全く同様の養浜材にする必要はないと考えています。
- ・ 粒径の上限を細かくすることは可能と考えています。

(近藤委員)

- ・ 前回は色のイメージとしてはグリーン系であると聞いたのですが、そのサンプルはありますか？

(事務局)

- ・ 本日は持ち合わせていません。

(近藤委員)

- ・ 実際に現場に入れるものと同様の材料を見せて頂きたいと思います。
- ・ もしこのサンプルのようなもので養浜をするならば、もっと私たちの理解を深めて頂きたいと思います。
- ・ 神向寺海岸についても、私は実際に現場を見ていないので良く分かりません。

(宇多委員)

- ・ 神向寺と同じことをやるつもりはありません。
- ・ 私としては5mmを上限としても問題ないと考えています。

(近藤委員)

- ・ 5mmと言われてもイメージがわかりません。
- ・ 実際にサンプルを見せてもらいたいです。
- ・ 同じように養浜をして成功しているところがあるのならば、実際に現場に行って、どういう状況になっているのかを確認した上でないと、受け入れはなかなかできません。
- ・ まして、海水浴場に近いところなのでなおさらそのように思います。

(宇多委員)

- ・ 事務局はその辺についての資料を持っていますか？

(事務局)

- ・ 本日用意したのは神向寺で実際に使われた粗粒材と、現在の3-4号ヘッドランド間の現地の砂です。
- ・ 前は粗い砂として説明しましたが、供給の面からそれは難しく、例えばということで、神向寺海岸で実際に使用された粗粒材を用意しました。

(近藤委員)

- ・ 実際の養浜材のサンプルを見て、現場も見て、その上で同意したいと思います。
- ・ もし粗粒材を養浜したとして、1回の高波でなくなってしまうことも考えられるのではないかと思います。

(宇多委員)

- ・ 高波が来た場合でも養浜材がなくなることはありません。
- ・ 神向寺海岸だけでなく、茅ヶ崎海岸でも同様に粗粒材養浜を行っています。高波が来ても安定的に砂浜があることが観察されています。

(近藤委員)

- ・ やはり、実際に見ていないので、何とも言えません。
- ・ あと、養浜の材料は白系の材料が良いと思います。
- ・ 2013 年の秋に実際に行くというお話でしたが、もう少し時間をかけて議論する必要があると思います。

(近藤委員長)

- ・ 事務局から、次回の会議かあるいは事前に、きちんとした説明と、サンプルを提示してください。

(秋山委員)

- ・ 海に棲んでいる生き物の立場でいうと、この材料は最悪です。
- ・ 礫は、砂浜の質としては安定していると思うが、礫というのは生き物・植物にとって最も棲みにくい環境になります。粗砂ならば問題はないので、2mm が上限になるのではないかと思います。

(宇多委員)

- ・ 現在、3-4 号ヘッドランドの間のフンカゴの前には砂浜がなく、今後も回復することは難しい状況です。
- ・ このまま放置しても良いという考えもあるかもしれませんが、それではあんまりだと思っています。
- ・ 秋山委員のおっしゃる通り、砂浜と礫浜とは全く機能の異なるものであることも、十分に理解していて、養浜材をもっと粗砂に近づけることも可能だと考えています。
- ・ 調達等のことは別として、利用の面からも保全の面からもより良い、新しいものを目指すのが理想であると思います。
- ・ 多少のリスクはあるかもしれませんが、最新の注意を払いつつ、勇気を持ってやったらどうでしょうか？

(近藤委員)

- ・ 防護を考えると粗いものでないといけないのは分かりますが、3-4 号ヘッドランド間ではなくて、1-2 号ヘッドランド間にとりあえず入れるのはどうでしょうか？

(宇多委員)

- ・ 場所の件については事務局も十分に検討しています。

(近藤委員)

- ・ 1-2 号ヘッドランド間で養浜材が流出しないで、3-4 号ヘッドランド間では流出する可能性があるのではないのでしょうか？

(宇多委員)

- ・ 3-4 号ヘッドランドの間に養浜しても流出はしません。
- ・ 神向寺海岸でも同様の議論になりましたが、実際に流出していないことが観察されています。

(近藤委員)

資料- 1

- ・ 他の海岸の話をされても、見ていないので分かりません。

(宇多委員)

- ・ 事務局として、もう一度議論の機会を設けるといっていかげんかでしょうか？

(近藤委員)

- ・ 1回と言わず、何回でもお願いします。

(清野委員)

- ・ 他の海岸ではなく、この海岸について、どのようにするのか？という議論は非常に重要だと思います。
- ・ 養浜材について、県内で調達できないと今までの説明の中で言われることが多いのですが、本当はないのでしょうか？
- ・ すぐにという形では、調達が難しいのは理解できるのですが、今後、河川改修や道路工事等の予定があるならば、そこから調達することはできないのでしょうか？
- ・ そういったことも含めて、もう一度考えて頂きたいのですが、いかがでしょうか？

(事務局)

- ・ 養浜材の供給候補について調査しました。
- ・ 調査の結果から、砂の調達状況について、現状でかなり難しい状況にあることが分かりました。
- ・ 漁港の維持浚渫・ダム・河川の砂等はあるのですが、粒径が細かく、養浜材としては使用できないことが分かりました。また、量も限られていて、その場しのぎのような養浜量にしかならないことも分かりました。
- ・ 国土交通省管理の利根川の河口にはいい砂があるのですが、現状では掘削の協議中ということで、まだ掘削されていない状況です。

(清野委員)

- ・ 砂防ダムや治山事業の残土については調査しましたか？

(事務局)

- ・ 千葉県内の砂防ダムにあるのは泥質ばかりで、粗めのいい砂が見当たらないのが現状です。

(近藤委員)

- ・ 県内にこだわらずに、県外も視野に入れて養浜材料を探して、可能ならば持ってきて頂きたいと思います。

(玉川町長)

- ・ 先ほどの利根川の河口の砂の件ですが、国の事業として掘削が行われていないということなんでしょうか？

(事務局)

- ・ おっしゃる通りです。現在は各機関および地元と調整・協議中の段階です。

(近藤委員長)

- ・ 時期的なものは分かりますか？

(事務局)

- ・ 時期的な話についても進んでいません。

(近藤委員)

- ・ 2-3号ヘッドランド間では海上養浜をして、少しずつ状況が良くなってきています。
- ・ 3-4号ヘッドランド間では、まだ海上養浜も行われていないと思うので、まずは3-4号ヘッドランド間でも海上養浜をしてみてもどうでしょうか？

(事務局)

- ・ 今年度、2-3号ヘッドランド間では、3万 m^3 以上の海上養浜をしていますが、片貝漁港の浚渫土砂が大量に出たので、片貝漁港の浚渫事業と連携して海上養浜を行うことができました。
- ・ ただし、常に浚渫を行っているわけではないので、そのような砂が調達できるかどうかは不明であるのが現状です。

(近藤委員)

- ・ 片貝漁港からは30万 m^3 の砂が出たという話を聞いていますが、まだ、10万 m^3 も入っていないと思うのですが、どうでしょうか？

(事務局)

- ・ 粗めの砂であれば、1mmには満たないのですが、太東漁港の南側に少量はあります。
- ・ 現在は、その砂を海水浴前に2-3号ヘッドランド間に陸上養浜している状況です。

(近藤委員)

- ・ 太東の砂がとても貴重です。この砂が養浜した場所から流出しないようにすれば、そこまで大量の砂は必要ないのではないのでしょうか？

(宇多委員)

- ・ 太東漁港の南側にある砂はいい砂ですので、できれば温存しておきたいと思います。2-3号ヘッドランド間で砂浜が侵食した際に集中投入するための大事な財産と考えた方が良くと思います。他の場所に投入できる程の量が無いのが現状です。

(近藤委員)

- ・ 新しくやるものなので、慎重に取り組んで、後で文句がでないようにして頂きたいと思います。

(清野委員)

- ・ 細かい砂が戻る環境を作ることが現状で重要なので、養浜材の検討をして頂いて、事業を進めていくのが良いのではないかと思います。
- ・ 片貝漁港の砂はどういうスケジュールで養浜材として使えるようになるのでしょうか？
- ・ 近藤委員が言うように、集中して大量の砂を投入していかないと成果が出にくいと思います。

(事務局)

- ・ 片貝漁港の浚渫土砂は毎年3万 m^3 程あると報告を受けています。ただし、粒径は0.1mmと細かいものです。

(近藤委員)

- ・ 3-4号ヘッドランド間に粗粒材を養浜した場合に、2-3号ヘッドランド間に粗粒材が移動するかもしれないことが心配です。
- ・ 本当に移動して来ないのならば、確信に至るものを示して頂きたいと思います。

(宇多委員)

- ・ 実際に現地に行って理解を深めてもらうことが必要だと思います。

(近藤委員)

- ・ 2-3 号ヘッドランド間が安定している状態ならば、粗粒材が移動してこないと納得できますが、現状ではまだ安定していない状態なので、不安が残ります。

(宇多委員)

- ・ 粗粒材は水深が 0.5～1m よりも深いところには移動しないということが分かっています。

(近藤委員)

- ・ 実際に移動してないかどうかについては、見ていないので良く理解できません。

(玉川町長)

- ・ 先ほど話にも出ましたが、実際に現地を見に行くという機会を設けることはできないのでしょうか？

(事務局)

- ・ 現地に行けるように検討します。

(近藤委員長)

- ・ 事務局から現地調査について検討して頂き、後日連絡して頂きたいと思います。

(松井委員)

- ・ 礫が投入されることでのリスクについて、秋山委員に意見を聞きたいのですが、いかがでしょうか？

(秋山委員)

- ・ 影響はかなりあると思います。
- ・ 海岸には海岸にしか棲めない生物がいます。大潮の満潮線から 5～10m 間隔で生息する生物が変化してきます。このような生物は他の場所には棲めません。礫を入れた場合には、このような生物は完全に消滅すると考えられます。
- ・ ライトランセクト法等の調査方法で、事前事後のモニタリング調査をしっかりとやって頂きたいと思います。

(松井委員)

- ・ 九十九里の漂砂のメカニズムについて、私の持論ですが、冬に吹く北東の風によって、砂が吹き上げられて砂が溜まっているのではないかと思います。礫の場合、風で運ばれなくなると思うのですがどうでしょうか？
- ・ また、礫の上に砂が堆積したとして、礫も沈んでいくと思うので、結果として大量の養浜を行うことになると思います。
- ・ 砂を今までに 10 万 m^3 入れたと聞きましたが、効果的に残ったのはどのくらいだったのでしょうか？

(鶴岡委員)

- ・ 限られた時間の中で、大事なことを決めないといけないと思いますので、現在まで議論した内容を念頭に置きながら、現地見学を行った後、再び議論するというところでどうでしょうか？

(近藤委員長)

- ・ 現地見学の後には3-4号ヘッドランド間の件は、また検討すると言うことでご了承願いたいと思います。

(3) 2-3号ヘッドランド間の対策について

事務局から一宮海岸の現状と今後の海岸保全計画について説明した。(資料3)

- ・ 今までの対策と今後について説明。
- ・ 対策案について提案。

【意見・質問】

(近藤委員)

- ・ 県のほうで考えて頂いたことに関して感謝しています。
- ・ 資料3のP21で、突堤Aは海水浴場のど真ん中にあるので、利便上問題があると思います。
- ・ 私の考えとしては、中央の突堤を伸ばすことが良いと考えているのですが、どうでしょうか？

(宇多委員)

- ・ 突堤を伸ばしても砂は北側に移動するので、ただ伸ばすだけでは浜幅を太らせることは困難です。

(近藤委員)

- ・ 全体を太らせるためには離岸堤しかないと思いますが、難しいことは分かります。
- ・ 秘密兵器の提案があります。V時型人工リーフがいいのではないのでしょうか？これによって、良い波も立ちますし、砂浜も回復すると思います。
- ・ 今回提案頂いた案ですと、海水浴のど真ん中に構造物を作ることになるので、利便性に問題が出ると思います。
- ・ これについては、南側についても同じだと考えています。本来は2-3号ヘッドランド間一帯が海水浴場ですので、できれば、全域で砂浜を回復して頂きたいと考えています。

(近藤委員長)

- ・ 清野委員から生態についての資料があると言うことで、お話を伺いたいと思います。

(清野委員) 生物について清野先生の手持ち資料を使って説明。

- ・ 先ほど議論のあった砂浜にしか棲めない生き物がいるという話がありました。砂浜が消失して生態系が破壊されてしまったのが、今の九十九里だということをご存じの通りだと思います。まずは、海底勾配を戻して生き物が棲めるような地形にすることで生き物が戻ってくると考えられます。
- ・ 砂浜が回復しつつある2-3号ヘッドランド間では、少しずつ生き物が棲むための土台が出来上がりつつあります。波に乗れる砂州の間のヨブが生き物の棲みやすい場になります。
- ・ 貝類が戻ってくると、ハマチドリなどの鳥やカニなども戻ってきます。このような綿密な調査はなかなか難しいですが、そのような場所ではサーフィンのためのいい波が立つので、サーファーの皆さんに協力願いたいと思います。

(近藤委員長)

- ・ 次回に清野委員からさらに詳しい話を頂きたいと思います。また、サーファーの方々にも協力

頂きたいと思います。

- ・ 近藤委員からの話は利用という側面と、技術的な側面のせめぎ合いであると思われます。まだまだ時間は掛かるかもしれませんが、町の方から利用という側面でどのような意思があるのかを提示して頂きたいと思います。
- ・ 当面の話としては、茅ヶ崎海岸等へ現地見学に行くということによりお願いします。

5. その他

事務局から今後のスケジュールについて説明した。

- ・ 次回は委員長からも話があったように、現地視察会を予定しています。日程等詳細が決まったら、連絡します。

6. 閉会